

(財)交流協会 学生交流事業

日台青年交流事業（大学院生招聘）

交流協会では、日本と台湾との青年交流を促進するため、平成6年度より台湾で社会科学分野及び人文科学分野について研究している台湾の各大学院生を毎年公募し、日本へ10数名を招聘しています。平成22年度は、「東アジア地域の国際政治、国際関係、安全保障」を研究している大学院生12名を平成22年12月9日から18日の10日間招聘しました。今回招聘した12名のうち、男女各2名の訪日報告書をここにご紹介致します。

台湾大学院生招聘事業訪日団報告書

中正大学戦略国際事務研究所

陳明慶



日本は四季が明確に分かれている美しい国です。一番のイメージは茶道文化と一年一度の桜の季節です。この10日間の旅行では細やかな、また温かなサービス態度に感動し、常に自信と情熱を顕わにしている生活態度に感心しました。先進的な科学技術、アジア諸国にさきがけた流行は多くの台湾人を虜にしていることも納得できます。

日台両国の文化背景は似ている点があります。文化背景だけでなく、生活習慣・政治・経済・社会全てとても良く知っているけれども、全く知らないような感覚を受けます。50年前日本政府は台湾に多くの歴史遺跡を残しました。このような一種特殊な関係から台湾の若者は日本文化に殺到するのだと思います。もちろん私自身も日本はずっと思いを馳せていた旅行場所です。縁があり今年私は交流協会が主催する台湾青年訪日団に参加することができたことに感激しています。

出発日前日、大学の先輩が去年交流協会のプログラムに参加したということで話を聞いたとこ

ろ、今回の行程は通常と異なっており、とても内容豊富だとおっしゃっていました。北海道・札幌という字を見ると、ドラマに出てくるような美しい景色や果てしないオホーツク海、真っ白な世界を歩く幸福感が頭に思い浮かびました。その他にこの豪華絢爛な日程では多くの文化活動が計画されており、期待せずにはいられません。この時、私は心の中で北海道では舞い落ちる雪で私たちの旅行が始まってほしいと願っていました。

初日チェックイン後、交流協会は日本の北国名物であるジンギスカンを用意してくれていました。台湾の日本式焼肉に似ていましたが、日本本場の焼き肉に興味があったので台湾とは全く異なる感覚になりました。食事前の文化体験もとても印象に残りました。北海道は緯度が高いため、冬





の寒さは厳しく、食事前に分厚い上着を脱ぎます。レストランは上着を掛けるハンガーを用意しておいてくれた他、焼き肉専用の布の服を用意してくれており、食事後でも焼き肉の匂いを気にする必要がありません。とても優しい心配りに感動しました。

二日目の行程も同様に素晴らしいものであり、そして今回の訪問の一番重要な部分でもあります。それは台湾大学院生と北海道大学の大学院生が共同で行う学術交流会です。交流会の方式は台湾学生にとって新鮮なものでした。北海道大学を代表して私たちを招待してくれたのは法学研究科の鈴木賢教授です。席上で先生から今回の交流会方式について説明がありました。「日本人は日本語を話し、台湾人は中国語を話す。なぜ第三言語である英語で交流しなければならないのか」と。学術交流会とはその名の通り知識を増やし、学習領域を広げる場です。言語の隔たりによって本来の意味を失ってしまっはととてももったいなく思

います。短い言葉ではありましたが私は震えあがりました。とても面白い理由です。みんなもこの誠実な態度と心配りに感動しているようでした。北海道大学の温かい歓待と気配りにとても感謝いたします。この感動的なもてなしによってこの学術交流会はとても円満に終了できたと思います。この活動で多くの可愛く、面白く、温かく、また上品な友達に出会えました。黄淨愉さん（親切で友好的で温かいきれいな女性です）、宋峻傑さん（独立した考え持つ人で批評能力の高い人です）、陳祥燕さん（中国東北人で中国の輝かしい経済に関してこう言っていました。これは表面上の幻に過ぎず、中は空っぽのみせかけです、と。この話で私はこの目の前の女性を期待の眼差しで見つめました）。またこれらのとても可愛い人たちによって私は北海道人の温かさ、友情を感じることができました。ずっと大笑いしていた児玉さんからは幸せな人のあるべき生活態度を学びました。黄さんから話を聞いてホームステイ体験の期待が膨らみました。私のホームステイ先は4年前黄さんがお世話になった家庭でした。中村さん御夫婦がこの可愛い女性の話をする時にはとても楽しそうな笑顔でした。またお母さんは4年前の写真取り出し、他にも御夫婦の3・40年前の結婚式の写真、娘さんの結婚写真や和服の写真、とても驚きました。ここでは日本の一般家庭の生活が体験できました。お母さんの可愛らしさや心遣い、お父さんのユーモア、彼らは生活をとても楽しんでお



り、緊張していた私はとても温かみを感じました。この可愛い御夫婦に再会するため必ず戻ってこようと思いました。もちろん台湾人の私は「私の可愛い日本のお父さん・お母さん、きっと台湾に遊びに来てください」というお誘いも忘れていません。

北海道は毎日0度前後でしたが、台湾の湿った冷たさとは異なり、とても乾燥していて、思ったほど寒いとは感じませんでした。2日目の朝私たちがホテルへ出て北海道大学へ向かう時に空からは真っ白な雪が舞い降りてきて、私たちの到着を歓迎してくれているようで、とても美しかったです。みんな北海道大学のキャンパスに入ると雪に覆われた景色に感動しました。台湾ではこのような真っ白な美しい景色を見ることはできません。昼食時キャンパス内のレストランで窓から外を見るとまるで自分が絵ハガキの中にいるかのようで「人生でこれ以上何を求めるといのか」と驚嘆しました。印象深く、驚きの冒険談は数日の日本の旅行で既にたくさん得られました。札幌登別温泉郷では浴衣を着て、まるで日本人になったかのように感じました。大小のタオルを持ち、みんなで隊を結成して裸の温泉体験をしました。何もまとも湯船に浸かるととても気持ち良く楽になりました。ガイドの森若さんはこう教えてくれました。日本人は3回温泉に入る習慣があります。チェックイン後1回、寝る前1回、起床後1回。不思議なことに初めは恥ずかしかったのですが、その後とても温泉に入るのが好きになりました。チェックアウト後荷物をバスに積み込むと、みんな既に温泉体験を名残惜しく感じているようでした。

5日目、早稲田大学での学術討論会が行われました。これは私が初めて経験する英語での発表です。内心とても不安で、まるで裸で台に立っているようで恐ろしかったです。英語は私の母語ではありませんし、無事に発表が終了するなんて考え



られません。このような緊張した雰囲気の中で、会場内には中国語ができる学生もいることを知り、少し安心できました。発表では自分のテーマに多くの人が興味をもってくれました。中国人留学生が、一見とても簡単だけれどもとても答えにくい問題を質問してきました。彼は「兩岸でECFAを締結したら、お互いに利点があると思いますが、なぜ多くの台湾人は反対するのですか」と質問したのです。実を言うとどのように回答するかが問題だったわけではありません。どのように考えを構成し、分かりやすい英語で答えるかが心配でした。この時来年の新しい目標として英語を頑張ろうと内心決めました。

今回私たちは多くの日本の伝統文化を体験しました。日程には相撲の朝稽古見学・茶道体験・浴衣体験、それに日本の参議院議員との座談会が組まれていました。日本で相撲の力士たちは非常に高い敬愛を受けています。とても神聖な日本文化です。しかし、地位の高い力士たちですが、私たちにはそんな様子は見せず、とても気持ち良く私たちとの写真撮影に応じてくれました。一人の力士は後ろでVサインをしており、とても面白かったです。これも私たちが懐かしく思う原因だと思います。しかし朝稽古見学の当日は6時起床、7時に出発し、現地では胡座や横座りで2時間以上座り、また会話も大きな動作もできませんでした。本当に辛かったです。しかし驚き、また羨ましく思ったことは日本で有名な力士は名門のお嬢さん



を奥さんに迎えるということです。これは本当に驚きでした。

私たちは光栄にも防衛省防衛研究所を訪れることができました。また研究所の資料閲覧室には多くの日本が台湾にいた際の文献資料がありました。その時私たちは2冊の分厚い英語の研究書籍を頂きました。内容は東アジア地域の安全に関する研究書(2010年初版)でした。研究内容は軍事安全保障問題に重点がおかれていました。参議院議員との座談会では日本のソフトパワー外交、北朝鮮による東アジア地域の安全問題及び中台関係について、日本はどのように考えているかを質問しました。

特筆すべきは日本の現役議員の方々が忙しい中、時間を設けて私たちのような台湾から来た青二才と会って頂いたことです。とても有り難く思いますし、得難い貴重な経験でした。今回出席された議員は5名で、5つの政党を代表していました。唯一残念だったのは時間の関係で私には質問する機会がなかったことです。幸運だったことは、台湾と中国大陸の間で日ごとに厚くなる友好関係に対して意見を伺えたことです。また日本と台湾の両国はどちらも共通の民主的価値観を持っており、二国の密接な友情は一種の信頼関係の上になりたっていることを強調されていました。これは台湾から来た私にとってとても貴重で喜ばし



いことであり、感動せざるをえませんでした。議員たちは更に二国の国民が各方面においてより頻繁に密接に交流してほしい、と話されました。

私自身議員の方々の意見と同じく、民主的価値観の貴重さと文化背景の相似は二国が今後交流を継続する基礎となり、また双方にとってとても大切なものです。これは双方の交流協会が努力しなければならないことです。次回日本を訪れ友人たちと再会したいと思います。また日本人が台湾に旅行し素晴らしい思い出を作りたいと思います。

台湾大学院生招聘事業訪日団報告書

淡江大学アジア研究所

張予馨



1. 学術交流会

北海道に着いた2日目、北海道大学法学研究科との学術交流会がありました。初めて体験した「北大式発表」はとても印象に残りました。双方の言語の違いにより内容の理解が不十分で、討論会の円滑な進行を妨げることを考慮し、発表前に北海道大学の学生により彼らの研究報告書はすで



に中国語へ翻訳され、私たちの報告書はすでに日本語へと翻訳されていました。言語の障害を排除したおかげでとても円滑に学術討論が進行されました。

私の発表議題は「中国の急速な発展によるアジアの安全保障への影響と因果」です。中国の発展により東アジアの情勢と国際関係の変化、日米と台湾の安全保障への影響を探ります。双方の発表内容は ASEAN 戦略、日本のソフトパワー、日本の少数民族政策、法律教育等々豊富で面白く感じました。学術研究会に参加したことはありましたが、初めて壇上で自分の研究報告を発表しました。それに、討論に参加するのは日本人と中国人留学生で、緊張して心穏やかではありませんでした。今回の交流を経て、自分の研究の不十分な点を理解できただけでなく、他の発表者の専門性もよくわかりました。台湾と日本の優秀な学生が切磋琢磨しながら学習でき、この緊張状態での学習はとても貴重な機会でした。

他に2つの講義を聴講しました。岩下明裕教授による「北方領土問題から見る日本とロシア」では北方四島の領土帰属問題に関する研究で、三島返還論を提唱されていました。四島の主権問題と日口の緊張関係を解決する最良の方法だと思います。2つめの講義は常本照樹教授の「アイヌ民族に関する日本の政策」です。台湾原住民の文化保存と状況が似ていて、日本政府もできる限りアイ

ヌ民族の維持と保護に努めています。領土問題と少数民族問題に関して私はあまり深い知識を持ち合わせておりませんが、この2つの講義を聴くことで、日本が現在抱える重要な問題を知ることができました。

2. 文化体験

北海道で人生初めてホームステイを経験し、とても興奮しました。私のホームステイ先の家族構成はとても特別で、お母さんは日本に嫁いで来たイギリス人。お父さんはユーモアに溢れ、朝食夕食の準備や皿洗いまでしてくれる、今までの日本人男性に対する印象が全く異なった人でした。

ホームステイ家族は私に日本に来て一番期待していることは何かと尋ねられたので、もちろん雪を見ることです、と答えました。それで彼らはまず1972年冬季オリンピックが開催された大倉山スキー台へ連れて行って行ってくれました。リフトに乗って標高300mのジャンプ台の発射地点まで行き、札幌市や石狩平野を眺められる人気のある観光スポットです。またスキー場の一角に札幌ウィンタースポーツミュージアムがあり、札幌冬季オリンピックの資料や各種冬季運動の歴史を紹介しています。当日は残念なことに大雪でリフトは止まっており、また博物館も修理中で参観できませんでした。次に「北海道開拓村」へ行きました。ここは明治・大正時代の北海道建築物を展示した



屋外博物館です。タイムトンネルを抜けて時代の変遷を体験するようでした。夜は温泉へ行きました。温泉の2文字を聞けば私はとても嬉しくなりますが、まさかあんなことがおこるなんて……。そこは露天温泉で、すでに「糸纏わない」覚悟はしていましたが、全く見知らぬ人の前で服を脱がなければならない時はやはりとても恥ずかしかったです。男女が分かれているので、お母さんは娘さんを連れて一緒に温泉に浸かりに行きました。彼女たちは私に温泉の正しい入り方や順序を教えてくださいました。日本式の露天温泉は本当に気持ちいい！！しかし露天温泉の湯船と湯船の間は距離があり、零下の気温の中で走り回っていた私は翌日重い風邪を引いてしまいました。2日目日本の他の港町とは異なる雰囲気を持った小樽へ行き、運河やガラス工芸を見学し、寿司を堪能しました。出会ってからたった2日間でしたが、密着した北海道の生活を体験させてもらいました。まるで本当の家族と別れるような感覚でとても別れがたく、将来また彼らと会うチャンスが来ることを願っています。もし彼らが台湾に来た時には今度は私が彼らのガイドとなることを彼らと約束しました。

北海道のアイヌ民族博物館でアイヌ民族の踊りと口琴の演奏を見学しました。シンプルで優美な琴の音は実際口琴を吹いてみたとき、簡単でないことがわかりました。北海道庁の旧庁舎で台湾好きのガイドさんに出会いました。東京では相撲の



朝稽古を見学しました。力士たちが必死に練習している姿から日本人のプロ意識を感じました。さくら亭で浴衣を着た経験はとても忘れられません。浴衣を着ればだれもが皆日本人のようで、男性はとても男気溢れ、女性は優美でおしとやかになれたような気がしました。茶道の先生はとても優美な身のこなしと専門的な作法で日本人の美に対する芸術の専門性と精神を表していました。

3. 国会議員との座談会

ずっと期待していた国会議員との座談会は風邪のせいで全て台無しになりました。忙しい中時間を設けて頂いた4名の先生が私たちの座談会に参加し質問を開始しようとしたまさにその時、鼻をかみすぎたせいで大量の鼻血が出てきてしまいました。この時参議院秘書の南部晴彦さんがすぐに「通行証」を渡してくれて、警備員に説明する必要もなくすぐに医務室で止血の処置をしてもらいました。この医務室は一般的には外から人が入って来られないらしく、鼻血のおかげでこのようなチャンスに巡り合えたことは、おそらく幸運だったのだと思います。医務室の薬袋は私唯一の記念品になりました。鼻血が止まった後座談会に戻りましたが、すでに最後の段階に入っており、残念なことにほとんど座談会に加わることはできませんでした。しかし特別な経験ができたと思っています。

4. 最後に

今回交流協会が主催する「台湾学生訪日団」の参加者に選ばれ、10日という短い日程で、北海道大学、早稲田大学での学術交流会のほか、実際に日本人の生活に溶け込むことができた1泊2日のホームステイ、浴衣や茶道といった日本伝統文化体験、国会議員や防衛省防衛研究所での時事問題の座談会や討論会など、内容は豊富でまた実りのある活動ばかりで、得られたものはとても多かつ

たです。「万卷の書を読むは万里の路を行くに及ばざる」と言いますが、交流協会から私たち台湾学生にこんなにも素晴らしい日本交流訪問活動の機会を与えてもらい、感謝しても感謝しきれません。視野を広げられただけでなく、本の中から学んだ知識と現況をリンクさせ、実際に応用できるようになりました。

団長である胡慶山先生に感謝します。北海道大学は胡先生の母校でもあり、胡先生の引率があったからこそ北海道大学を知りえました。北海道部分の森若さん、東京部分の末石さん、そして交流協会台北事務所の陳素玲さん、高雄事務所の林美琪さんに感謝します。彼らの協力があってこそ、今回の行程がこんなにも豊かで且円満に行えたのだと思います。最後に一緒に参加した11名の優秀な仲間たちに感謝します。みんなから多くのことを学びました。今回の行程の最大の収穫です！

台湾大学院生招聘事業訪日団報告書

台湾大学政治学研究所

林伯駿



今回交流協会が主催する大学院生訪日団に参加することができとてもうれしく思います。同時にこの行程を経て多くの収穫を得るチャンスを得ました。日本文化や社会、政治関連の知識を増やせるだけでなく、多くの台湾と日本の友達ができ、自分の視野を広げることができました。私は中学校から断続的に日本語を勉強してきました。しかし一度も日本へ行く機会に恵まれませんでした。今回の訪日団で長い間夢見ていた思いが果たされ、これまで勉強してきた言葉を現地ですることができました。また北海道と東京という全く違った雰囲気を持った場所に行くことができ、

本当に収穫が多い行程でした。以下テーマに分けて私の感想、そして見て、聞いて、学んだことを報告したいと思います。

講義と訪問

今回の訪日団の行程には多くの講義と訪問が組まれていました。北海道大学で北方四島とアイヌ民族に関する講義、そして東京での国会議員との座談会と防衛研究所の訪問の計4回です。この4つの活動は私にとって多くの知識を与えてくれました。「北方領土問題から見る日本とロシア」の講義の中で岩下教授はとて特別な観点から北方領土を含めた戦後日本の領土問題を討論しました。軍国主義時代の「大日本帝国」から縮まり、現在の「日本国」になった過程から討論が始まりました。それには明治維新以後日本が追い求めてきた国家の近代化についての討論が必要です。つまりそれは国境として一体どこまでが日本の「領土」であるかという問題です。現在の日本の領土は本州・九州・四国・北海道の4つの主要な島と沖縄などの小島によって日本の国土が形成されています。しかしこれは封建時代からそうであったわけではありません。日本の国土範囲と境界線は近代以降広がりを見せていて、それは日本が第二次世界大戦敗戦後帝国主義及び軍国主義が終結するまで続きました。これにより、日本国土は縮小し国境が決められたために、戦後日本と周辺の多くの国で領土問題の原因となったのだと岩下教授は考えておられます。日本人の中でも多くの異なる意見があるようです。

常本教授の「アイヌ民族」の講演の中で、現在アイヌ民族は日本の社会的地位が相対的に弱い存在であることを具体的に説明下さいました。同時に近年数十年来の日本政府が行ったアイヌ民族政策の変遷を簡単に紹介して下さいました。日本はずっと単一民族国家だと強調していたのが、現在アイヌ民族は日本国内の一民族として承認されま

した。これはとても大きな変化です。アイヌ民族問題に関し、私は台湾で多少耳にしたことがありました。しかし日本人にとって台湾人がアイヌ民族という言葉聞いたことがあるだけでとても素晴らしいことのように思っているようです。なぜなら日本国内ですらアイヌ民族を全く理解していない人が少数ではないからです。日本のアイヌ民族問題は台湾の少数民族問題と似通っている部分があると感じます。彼らの伝統生活地域は優勢な民族によって占領された後、どのようにして彼らの基本的な生活条件を確保し、伝統文化を保護し同化を防ぐかというのは、日台ともによく考える必要のある重要な課題です。

国会議員との懇談会では各党及び衆参両院の議員から台湾と東アジアに関する考えを伺いましたが、全体から言うと、発言した各議員たちは所属している党または日本政府の立場を完全に表しているわけではなく、全体的に聞くと少し無秩序な感じがしました。多くの矛盾や繰り返して説明される部分もあったように感じます。しかし初めて彼らの発言を聞くことができ、やはり収穫は大きかったと感じます。特に彼らの台湾情勢に関する理解度と二国関係の友好促進努力はすばらしいと感じました。

最後に防衛省防衛研究所を参観しました。2名の研究員が「日本が直面している安全脅威」「日本の『新国防白書』の内容」という2つのテーマに関して発表しました。前者は日本の東アジア地域における安全面の脅威を概要として説明して頂きました。それはまさに領土および海域に関する周辺各国との衝突とその火種にほかなりません。また、北朝鮮の核開発問題は日本を脅かす安全面の脅威です。後者は新しく発行された国防白書において日本の軍事役割が変化したことを紹介して頂きました。多くの国際的な安全活動に参加し、より積極的な役割を担いたいということでした。今回の訪問は彼らとの討論以外に彼らが私たちにプ

レゼントしてくれた本年度報告書が私としての最大の収穫でした。報告書には彼らの研究成果が数多く載っており、防衛研究所を訪れた価値をより上げてくれました。

ホームステイ

今回の活動で一番期待していたのは1泊2日のホームステイです。なぜなら日本人の家庭での生活を体験でき、二国の文化や習慣の違いを体験できるからです。私のホームステイ家族は札幌で果物生産の会社を経営している家庭で、お父さん・お母さんと1人娘さんがいました。お父さんは仕事の関係から週末のみ家に戻り、娘さんも仕事を持っているため、60歳のお母さんが私をいろんな場所に連れて行ってくれました。2日間で開拓村、北海道神宮、大倉山などに行きました。そしてお父さん・お母さん・娘さんとは多くのことを話しました。とても特別な体験をさせてもらいました。

他にも本場の家庭料理を味わいました。朝ごはんは納豆と白米、牛乳という組み合わせは本当に驚きました。昼食には日本式の鍋を食べました。本当に美味しかったです。さらに彼らが中華料理と称するエビチリも食べました。また日本人は屋内の衛生をととても重視していました。ホームステイ家庭には物が多かったのですが、雑然としている感覚は全くありませんでした。全ての物が整理整頓されていました。またトイレや風呂場は台湾の家のような使用後の湿った感覚はなく、むしろとても爽やかな感じすらしました。

文化体験

今回多くの文化体験活動がありました。温泉の他アイヌ文化、相撲、浴衣、茶道等の体験をしました。また二度の居酒屋の経験は日本の伝統と現代文化を体験できたように感じました。日本と台湾は同じ東アジア文化圏で儒教と漢字の影響を受

けた地域であるにも関わらず、地理環境と民族性の違いから全く違った文化発展を遂げています。このようなカルチャーギャップは私が海外へ行く際一番期待をしていることです。過去に私はタイ・ミャンマー・バリ島などの地域色豊かな場所を訪れました。いつもそういう場所を訪れると私は自分自身で現地の生活を体験しようと試みます。そして今回日本を訪れ、正式な行程以外にも自由時間を利用し、日本の友人を介し多くの日本の若者生活に触れることができました。これらは観光では経験できないことです。

多くの文化体験の中でいくつか特に印象に残ったことがあります。第一は温泉の体験です。テレビでよく日本の温泉を紹介する番組を見ますが、以前は日本の温泉がそんなにいいものだと思っていませんでした。しかし自分自身で温泉を体験し、ようやくこんなにもリラックスできるものなのだと思いました。夕食前、就寝前、朝食前に温泉へ入りましたが本当に素晴らしいです！相撲も特に印象に残りました。私のおじいさんはNHKでよく相撲を見ている。最近では時間がないうえに一緒に見ることは少なくなりましたが相撲に関しては多少理解しているつもりです。そういう理由もあり、実際力士が相撲部屋で練習をしている様子は見慣れている感じがしました。厳格な訓練は深く印象に残りました。最後に茶道体験です。日本の茶道の重要部分は抹茶そのものではないと深く感じました。お茶をたてる過程で現れる上品な気質やそれぞれの音が奏でる雰囲気、それらこそが茶道の魅力ではないではないでしょうか。修行をしてきた人の心配りはとても日本色の濃い文化だと感じました。

論文発表

大学院生訪日団として一番重要なこととして論文発表があります。これは日本の大学院生や教授と学術交流が行えるととても得難い機会です。私は

北海道大学での発表でした。テーマは日本と直接関係はしていませんが、日本が国家安全の脅威とみなしている北朝鮮の核開発問題と関係することです。私に質問した北海道大学法学部の台湾籍の先生はこうおっしゃいました。私の論点は少し北朝鮮寄り、国際法上では北朝鮮の責任能力がないので、国際法で北朝鮮を制裁できないと結論付けるべきではない、と。基本的に私と彼の論点は一致していて、北朝鮮の核開発問題は政治的問題であって、単純な国際法問題ではないということです。北朝鮮はとても聡明に多くの国際法で負うべき責任を回避し、核開発という目的を達そうとしています。国際政治とは単純に国際法を説いて済む問題ではないのです。これにより大国が担う役割と地位はとても重要なものになります。最終的に核開発問題の解決は大国間で如何にして北朝鮮に安心感を持たせ、核開発を放棄させるかにかかっていると思います。

最後に再度言うべきは、今回の訪日団に参加できたことは私にとって最大の光栄でした。この訪問中多くのことを学び、多くのカルチャーショックを受け、そして多くの人と知り合えました。また自分の足りない点を認識し、視野を広げることができました。これらは私にとってとても大きな収穫です。将来また同様な活動に参加したいと思います。

台湾大学院生招聘訪日団報告書

成功大学政治経済研究所

駱宜風



どの活動でも全て新しい学習と経験ができ、全く違った収穫があり、自分の成長にもなりました。今回参加した台湾大学院生訪日団は学習と体験の

機会に溢れたものでした。選考への準備から合格、事前説明会までずっと不安と期待を抱いていました。そして中正空港から飛行機で大空へと飛び立った瞬間、ようやく夢がかなったような感覚に襲われました。ついに台湾と深い関係のある国へ出発しました。北海道の粉雪、東京の繁華街、日本文化の奥深く研ぎ澄まされた力、これらのことを10日間で一つ一つ体験できました。訪日団の行程は論文発表だけでなく、特殊議題講義、日台学生交流などの学術活動、ホームステイ、日本伝統文化体験活動など多岐にわたり、私は日本文化の伝統を深く知ることができ、本当の日本の精神がどのようなものかを理解することができました。

学術交流

学術交流は訪日団の主要目的の1つです。今回の団員は北海道大学法学研究科と早稲田大学の公共経営研究所に分かれ、2度のとても特別な日台学術論文発表交流会が行なわれました。北海道大学の学術交流会では国家のソフトパワー・日台法規制度の比較・少数民族保障問題に関する発表及び討論が行われました。日台双方の学生の発表計画書からわかるのは、日本の学生は研究動機や概念や着想を重視し、一方台湾の学生は研究の枠組みや結果予測への導きを重視しています。ここからも異なった教育制度や学習環境の下、違った学習思考や研究方式が形成されることがわかります。特筆すべきこととして、北海道大学で今回の活動を仕切って頂いた鈴木教授にはとても気を配って頂いて、双方の研究計画書を日本語及び中国語に翻訳して頂きました。また全ての論文の発表で通訳が付いたので、お互いに言葉の壁があったにも関わらず、どの発表でも論文の論点をはっきりと理解できました。このような細やかな事前準備は交流会の順調な運行の助けになると同時に、私は日本人の仕事に対する態度に尊敬せざる

をえませんでした。

私は早稲田大学の学術交流会で論文を発表しました。内容は「中米台の三角関係戦略及び協力」です。私は三角戦略の理論を用いて、また政治の現状を考慮し、将来台湾がどのように発展・変化していくのかを分析しました。幸運にも中国からの留学生も数人参加しており、また早稲田大学からは専門的な立場から評価してくださる先生が参加していたので、私の発表に対して双方から多くの意見や問題が出されました。交流会終了後、私は中国と台湾の人々の兩岸問題に対する考え方について更に交流を行いました。それにより今後私の論文に修正を加え、また文章を昇華させることで、今回の学術交流会の真の目的を果たせたと思います。他に、今回の学術交流会では多方面の議題が出されました。企業経営管理、国際関係や外交、政府政策や制限について討論が行われました。日台両学生は全て英語で発表することで時間を節約し、多くの時間が質疑応答、評価などの話し合いに当てられました。

論文発表の他に、私たちは北海道大学で2つの専門的講義を受けました。「北方領土から見る日本とロシア」「アイヌ民族について」です。これらの議題はやや日本の国政色が強いので、台湾の学生はこれまであまり触れる機会がありませんでした。しかし北海道大学の岩下教授・常本教授の分かりやすい説明の後、私たちは日本国の領土と主権の保護及び先住民族政策の執行に関して一歩進んだ理解ができました。北方領土問題では官民区別なく皆この問題を重視しているようです。そのため政府が領土問題の交渉時は簡単に国民の支持を得ることができます。しかし、交渉の決意と将来の見通し以外に、もっと重要なことは交渉の手段です。どのように敵対する両国間で一方的な意見の主張ではなく、交渉のパイプを構築していくか、これが今後政府が正視しなければいけない長期的な目標です。アイヌ民族に関して、日本政府

は消滅の危機にある種族に対する偏見をなくすことから着手しなければいけません。しかし民族の差異によって生じる生活の落差は現実に存在します。すぐに具体的な補助的政策によってアイヌ民族の教育不足・貧困問題など直面している問題を解決しなければなりません。これらの2つの講義は今後私たちが日本・台湾の外交、国際関係、種族政策において比較研究する助けとなります。同時にどのように相手の長所をくみ上げ、私たちの短所に活かすべきかを勉強することで、将来台湾の政策と執行手段を改善できると思います。

文化体験

今回交流協会が入念に計画した10日間の日程では学術研究会や自由行動以外に多くの日本文化活動がありました。一番特別だったのは1泊2日のホームステイです。私には3人家族の小さな家庭を手配して頂きました。家族は40過ぎの若いご夫婦に14歳の可愛い娘さんがいらっしゃいました。私個人の日本語能力は初級なので、ホームステイ家族にお会いする時はとても緊張しましたが、お父さんがずっと私に話しかけてくれて、徐々に筆談や身振り、簡単な日本語の単語を交えることで、お互いコミュニケーションがとれるようになりました。最初の緊張は次第に家族の中に混じり、同じ家族のような感覚さえ抱き始めました。

2日間で私は同じ家族のように一緒にボーリングやショッピングモールへ行き、北海道のアイスクリームを食べ、プリクラを撮り、札幌の夜景を見ました。更には娘さんが学校へ連れて行ってきて、嬉しそうに学校の中を案内してくれました。幸運にも2日目は私の誕生日で、心やさしいお父さん、お母さんは私のためにOPENちゃんのケーキを予約しておいてくれた他、タラバガニ・うに・いくら・その他私の食べたことのない海鮮を用意して頂いて私の誕生日を祝ってくれました。更に感動したのはお父さん・お母さんから温かい気遣

い、手厚いもてなしを受けたことです。私は日本人の誠実なもてなしの心を身を持って体験しました。また一人っ子である娘さんは姉のように接してくれました。心と心の距離がとても近く、言語の隔たりなんて問題ではありませんでした。2日間の楽しい時間はとても速く、交流会後はとても別れがたかったです。

ホームステイでは日本人の日常生活に溶け込み、台湾学生と日本家庭の行動と感情の交流により、日台の有効的で緊密な関係を築けたと思います。とても意義があり印象に残りました。ホームステイ以外に交流協会は様々な活動を用意してくれていました。茶道・力士の朝稽古・アイヌ民族博物館見学・江戸東京博物館等々の日本文化巡礼の旅で台湾の学生はより日本の伝統的民族文化を理解できたと思います。その中でも茶道と浴衣の体験では、みんなが日本の伝統的衣装に身を包みました。服を着る過程はとても複雑でしたが、その結果とても大きな喜びがありました。襟を正して正座しながら学んだ日本の茶道では先生の一举一動から伝統を重んじる心が伝わってきました。力士の朝稽古は3時間とかなり長かったですが、どの力士も常に集中をして練習をしていました。これらの活動から日本人の物事を処理する際の厳格さや真面目さを見て取れます。尊敬と驚嘆の念はもちろんですが、私たちが見習うべきことがとても多かったです。

外交と政治交流

今回の訪日団員は政治・国際関係・外交に関わる大学院生を中心としています。そのため日本の政治や外交に関する機関との交流は免れません。国会議員との座談会、国会議事堂参観、防衛省防衛研究所での座談会を行ないました。国会議員との座談会は多くのことを学んだ良い機会でした。私は光栄にも発言する機会を頂き、朝鮮半島の南北緊張状態に対する日本の対応について質問しま

した。議員の先生方は日本という国を挙げてこの問題には関心を持っていると話されました。そして今回の衝突は東アジアの他の国にも影響があり、日本は軍事力を持たないけれど、日米安全保障条約が防御機能として発揮するという考えを示されました。防衛研究所の座談会では日本の自衛武力の発展の歴史と概況、それに目下東アジアの国際安全が面している問題とその対策に関して理解できました。座談会の質疑応答の中で、日本は武力の発展には外的制限があるものの、国家自衛能力の向上は非常に重視していると感じました。日米安全保障条約は多くの金銭が必要となり、批判的な世論が噴出しますが、日本政府は頑なにその犠牲を以って国家の安全と東アジア防衛の責任を担っています。この点は台湾政府の外交戦略と異なっており、今後の研究するに値する問題だと思えます。

生活体験

豊富で意義深い行程は10日間の生活をとてますばらしいものにしてくれました。上記の学術交流会、生活や文化の体験、外交や政治に関する交流の他に特に記載すべきは一緒に海外で生活を共にしたこの台湾の優秀な学生たちです。彼らの存在によってこの活動がより意味のあるものとなりました。まず感謝しなければいけないのは胡慶山団長、そして北海道部分のガイドである森若さん、交流協会の末石さん、そしてずっと随行してくれた林さんです。胡団長は今回の団長としてはとても適任だと思いました。私たちが遊びに興じてい

る際も、タイミング良く毎日の報告をするように差し向けてくれました。北海道の森若さん、東京の末石さんは細やかに行程管理をしてくださいました。そして林さんは厳格な監督者ではなく、とても優しいお姉さんとして私たちの世話をしてくれて、生活で困ったことがないか気を配ってくれました。厳格な雰囲気の時、笑いが起きるような内輪の集まりの時、もし彼らがいなかったら、この訪日団はこんなにも完璧なものではなかったと思います。

もちろん団員間の溶け合った友情も10日間で一番貴重なもののひとつです。学術発表前にお互いの論文を聞き、お互いに意見をし、励まし合いました。雪が舞うミュンヘンクリスマス市で、興奮しながら雪が舞い降りてくるのを見ていました。雪に覆われた札幌の大通りをスケートしながらお互い転ばないように歩きました。登別温泉で、恥ずかしがりながら温泉に入り、リラックスしながらおしゃべりしました。旅館の畳で輪になってトランプで遊びました。まるで子供のように笑い、北海道の有名なお菓子を堪能しました。みんなで表参道のネオンに驚嘆しました。北海道大学では寒くて震えながらしきりにシャッターをきりました。疲れも知らず2日続けてプリクラを撮りにいきました。数多くの思い出は写真の枚数となって積み上がりました。10日間の日程は既に終了していますが、2010年私たちが書き始めた物語は永遠に終わることはありません。交流協会、ありがとうございます。みんな、ありがとう。